

## 平成 29 年度修士論文要綱

「大分県における評価選別の基準を文書の残存性から見る～大分県米軍接收地問題を例にとって～」

別府大学大学院文学研究科歴史学専攻 2 年

M1611003 吉田翔馬

修士論文では主な目的は公文書、新聞という史料が関連づけて研究することによりこの大分における米軍接收地問題を官と民、両方の側面から見ていくことによって当時の大分の問題を見極めていき当時は評価選別という概念が無かったにも関わらず、なぜ公文書という資料が残ったかを究明することである。

筆者は大分県公文書館所蔵の資料・公文書からその実態を探っていくことにした。

今回、主に使用した資料は「大分県報 六月五日第二千二十七號」にある「昭和 28 年訓令企第 1835 号 大分県文書編さん保存規程」と大分合同新聞、簿冊資料である『在日米軍に提供する施設資料』である。

まず、「昭和 28 年訓令企第 1835 号 大分県文書編さん保存規程」であるが昭和 25 年 9 月訓令企第 2271 号を改正したものである。現在は使用されておらず、大分県文書管理規程（昭和六十二年大分県訓令甲第十三号）を改正した大分県文書管理規程（註 1）が適用されている規程である。特に永年保存が不自然だと思えるものも少なく永年保存するのに足る文書ではないか、と思った。

次に大分合同新聞（註 2）であるが、新聞記事を見ていくことによって、一貫して地元住民に対しての配慮を欠いてしまったからこそ後に勃発する反対運動につながっていったのではないかと私は考える。

最後に『在日米軍に提供する施設資料』について言及していく。『在日米軍に提供する施設資料』は昭和 27～29 年度に作成された文書である。現在は大分県公文書館に所蔵されている。簿冊形式で綴じられており、大分県公文書館ではこれを中性紙箱に包んで収蔵している。

内容的に 4 つに分類すると ①接收地に関する調査・調査依頼について（被害状況だけでなく広さや建物の間取り等）②地元住民・地域・県からの陳情書、嘆願書、要望書③. 接收地の拡大や追加についての調査④米軍、国との①～③の件についてのやり取りに分類できる。

この文書が当時の現用文書の集合体として残存しているということは米軍接收地問題については行政として大きな問題であったと考えられる。

業務上に必要であることは歴史的な価値と一致している例としてこの残存状況を見れば、自ずと必要なものだから残す、という当時の考え方は識的に評価選別を行ったわけではないが業務的な取捨選択が評価選別の役割を持った、とってよいのではないだろうか。

（註 1）「大分県法規集（現行版：平成 29 年 10 月 01 日）」[http://www1.g-reiki.net/reiki/Li05\\_Hon\\_Main\\_Frame.exe?UTDIR=C:\¥EFServ2¥ss000B0017¥GUEST&TID=3&SYSID=9163](http://www1.g-reiki.net/reiki/Li05_Hon_Main_Frame.exe?UTDIR=C:\¥EFServ2¥ss000B0017¥GUEST&TID=3&SYSID=9163) 大分県 最終閲覧 1.19 10:00

（註 2）大分合同新聞の当時のバックナンバーは大分県立図書館内の調査相談・郷土情報室において申請を行うことによってデータベースにある当時の新聞の閲覧が可能である。また、当該データベースでは 1 頁としているため、以下の註ではそれを参考にして頁数をつけている。また、見出し検索が大分県立図書館のホームページ（<https://library.pref.oita.jp/>

winj2/opac/search-headline.do) から行える

## 引用・参考文献

- 安藤正人『記録資料学と現代 ——アーカイブズの科学を目指して——』吉川公文書館 1998. 6. 1
- 岩上二郎『公文書館への道』共同編集室 P93 1988. 4. 10
- 中島弘二「戦後の大分県における米軍接收反対運動—生活世界からの抵抗—」『日本地理学会発表要旨集 2015s(0)』公益社団法人 日本地理学会 2015
- 藤本一美「戦後青森県政治史序説—③(1953年～1956年)」『専修法学論集(122)』専修大学法学会 P 167-198, 2014. 12
- 胡子裕道 他2名「内灘闘争の目的に関する考察：1953年当時の雑誌記事に着目して」『生涯学習基盤経営研究(37)』東京大学大学院教育学研究科生涯学習基盤経営コース内『生涯学習基盤経営研究』編集委員会 P27-36 2012
- 「大分県法規集(現行版：平成29年10月01日)」[http://www1.g-reiki.net/reiki/Li05\\_Hon\\_Main\\_Frame.exe?UTDIR=C:\EFServ2¥ss000B0017¥GUEST&TID=3&SYSID=9163](http://www1.g-reiki.net/reiki/Li05_Hon_Main_Frame.exe?UTDIR=C:\EFServ2¥ss000B0017¥GUEST&TID=3&SYSID=9163) 大分県 最終閲覧 1. 19 10:00
- 「大分県報 六月五日第二千二十七號」大分県『大分県報 昭和二十八年(五)』P1451～1496 1953.6.5 大分県公文書館所蔵
- 1953年9月25日大分合同新聞夕刊2頁「”間接被害にも補償を”米軍演習で漁獲さっぱり」大分合同新聞社 1953. 9. 25
- 1954年6月5日大分合同新聞朝刊3頁「汗の耕地を軍靴で荒す 区域無視して演習 十文字 保安隊に開拓民怒る」大分合同新聞社 1954. 6. 5
- 1956年5月27日大分合同新聞朝刊3頁「砲弾でタメ池がもる 日出町南端 25町歩が植付できぬ」大分合同新聞社 1956. 5. 27
- 1956年11月6日大分合同新聞夕刊3頁「”寝耳に水”の自衛隊演習 日出生台 ”危なくて通れない”行楽計画オジャン バス会社は大ムクレ」大分合同新聞社 1956. 11. 6
- 1962年10月13日大分合同新聞朝刊7頁「演習の中すわりこむ 九重町の中須地区民「稲刈りが遅れる」」大分合同新聞社 1962. 10. 13
- 1952年7月5日大分合同新聞夕刊2頁「またきた防空演習 不安の聲が圧倒的 燈火管制の効果にも疑い」大分合同新聞社 1952. 7. 5
- 1953年10月29日大分合同新聞朝刊「迷惑がられる保安隊演習 ”農繁期に大打撃” 由布院 観光もぶちこわし」大分合同新聞社 1953. 10. 29
- 1953年11月18日大分合同新聞夕刊1頁「日出生台接收本決り 森演習場を含め五千町歩 ない日米軍無期限使用？」大分合同新聞社 1953. 11. 18
- 1956年7月19日大分合同新聞朝刊3頁「ねらわれている日出生台 米軍の爆撃演習用 別府 早くも反対の火の手」大分合同新聞社 1956. 7. 19
- 1955年1月7日大分合同新聞夕刊3頁「風俗十年史 米軍編 通訳までが肩で風 今は気を使う米軍」大分合同新聞社 1955. 1. 7
- 1954年6月5日大分合同新聞朝刊3頁「汗の耕地を軍靴で荒す 区域無視して演習 十文字 保安隊に開拓民怒る」大分合同新聞社 1954. 6. 5
- 1952年7月5日大分合同新聞夕刊2頁「またきた防空演習 不安の聲が圧倒的 燈火管制の効果にも疑い」大分合同新聞社 1952. 7. 5
- 『在日米軍に提供する施設資料』大分県外務課 1957～1959 大分県公文書館所蔵
- 1953年3月6日大分合同新聞朝刊「縣の計畫がフイに 日出生台林業 訓練激化で支障」大分合同新聞社 1953. 7. 5
- 1955年1月11日大分合同新聞朝刊3頁「大分飛行場接收地を拡大」大分合同新聞社 1953. 7. 5

1956年1月18日大分合同新聞朝刊1頁「飛行場の共同使用」大分合同新聞社 1956.1.18

1956年1月20日大分合同新聞朝刊1頁「滑走路の一部でも」大分合同新聞社 1956.1.20

安澤秀一 『史料館・文書館学への道 ——記録・文書をどう残すか——』吉川弘文書館 1985.10.1